

令和5年度
校長室だより No.10
令和6年1月10日 発行



二星

1月9日 全校集会校長挨拶

令和6年、新しい年を迎えました。

本来であれば、初春のお祝いを申し上げたいところです。しかし、新年早々、能登半島で最大震度7の地震と、それに伴う津波が発生しました。また、次の日には、被災した方々の支援に向かおうとしていた海上保安庁の飛行機と日航機が接触事故を起こす、という大惨事が発生しました。心からお亡くなりになった皆様のご冥福をお祈りし、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

羽田空港の事故では400名近い乗客と乗員全員が、速やかに機体から避難できました。災害などの危機的状況にあっても、他の人を視野に入れながら整然とした行動をとることができるのは、幼い頃から培われた、私たち日本人ならではの業(わざ)でないかと考えます。一方、地震からは、人智を超えた自然の力を思い知らされました。人間の力ではどうしようもない出来事が起こる可能性があること、私たちはこのような出来事から学び続ける必要があることを、あらためて受け止めなければならない、と感じた年の初めとなりました。

「あなた何気なく生きた今日は、昨日死んでいった誰かがどうしても生きたかった明日」

このような災害が起こるたび、私の心にこの言葉が思い浮かびます。

そして、この言葉を思い出すたび、心の中に太い芯のようなものが1本通る気がするのです。東日本大震災のあとに初めて出会ったこの言葉は、その後の人生で私を支え続けてくれます。

災害によって命を落とした方々は、昨日まで私たちと同じ日常があったはずです。明日を夢見て、将来に希望を持ち、精一杯生きていました。しかし、今回の災害で思い知らされたように、いつ、どんな不幸が私たちに起こるかは、絶対に誰にも分かりません。

だからこそ「今日という日を精一杯生きよう」と思えます。

失敗しても良い、後悔するのは当たり前。ときに寄り道しても、誘惑に負けても構わない。とにかく今を大切にすることを忘れず、今日をしっかり生きようとする心を持ち続けよう。

この言葉は私がとても大切にしている言葉です。だから、君たちにも声に出して読んでほしい。言葉の意味を噛みしめ、考えながら、読んでほしいです。

あなたが何気なく生きた今日は、昨日死んでいった誰かが、どうしても生きたかった明日。

さて、ここからは、新年を迎えるにあたっての、皆さんに対するメッセージです。旧年中に準備していた言葉を各学年フロアに掲示しました。

まず1年生の皆さんへ。

私たちは絶対に一人では生きていけません。自分の夢を叶えていくなら、なおさらです。周囲の人、家族や学校の先生、友達との出会いやその人たちからの協力が必要です。その協力があってはじめて夢を実現できる可能性が出てきます。

幼い子供や弱ってしまった心は視野が狭いため、周りの人のありがたみが分からない。だから愚痴や文句ばかり言うてしまう。しかし、それではいつまで経っても夢に近づくことはできない。「悪いのは自分じゃない」これはとても悲しい考え方です。

まずは夢を描くこと。そのために、私が大切だと考えるのは、協力してくれている人に感謝できる心を持てる内面です。

「ありがとうの心」は視野を広くし、ゆとりと安定を与えます。

「夢は感謝とともにある。」そのことを胸に刻んでください。



2年生の皆さんへ。

これまで学んだり体験してきたことを相手の立場を考えて受け止め、人と人との関わりを感じ、相手に感謝できるようになってくると、不思議なことに気持ちはどんどん前向きになります。

そこからは、強い気持ち、つまり「志（こころざし）」を持って生活することができるかどうか、分かれ道です。

志を持てるようになり、なりたい自分をビジョンとして描けるようになってくると、そこには「目標」が生まれます。ただ、得意な分野を伸ばしたり、苦手なことにチャレンジしたりする前向きな気持ちの根源は、やはり「感謝の心」。難しい気付きなのだけれども、とても大切なので、心に置いてください。

確かな目標は、自分の行動を変えてくれるはずですが、だから、今の君たちに求めるのは、「志をもって生活する姿」です。



そして3年生。

これまで君たちは、唐桑中学校で素晴らしい成果を積み上げてきた。君たちは3年生として立派に成長し、学年としてなすべきことを行い、目標をもって生活してきた。あとは培ってきたその力を自分自身に生かすのみです。

今、卒業を控え、一人一人のやるべきことは理解できているはず。ここからは1日1日、最善を尽くすために努力しようとする。気持ちが沈んだり、自分自身に負けそうになることもある。でも、そこに「志」があれば、大きく傾かず、立て直せます。

3年生には、この一瞬の大切さを、この時間がかけがえのないことを、この1日の素晴らしさを、実感しながら生活してほしい。そう願っています。一緒に頑張りましょう。

